

# **BS7H**

## **SCARBORO REEF DX-PEDITION**



**HAM FAIR '94  
DX-PEDITION FORUM  
21ST AUGUST 1100-1200**



## スカボローリーフとは

スカボローリーフは、フィリピンの近くに位置し、本土の中国からは225マイル以上、水域によって隔てられているサンゴでできた礁（リーフ）です。現在326あるDXCCカントリーの第327番目のカントリーと目されています。

ここでいうDXCCとは、アメリカのアマチュア無線連盟ARRLが1945年に制定したルールで、世界の100カントリー以上と交信しQSLを得ると会員に認められるものです。また、カントリーとは、原則的に国家に準じますが、ルールで定められた本土との距離などによって、同一の国家であっても別のカントリーとして認められる場合があります。前述の225マイルの数字も、このルールからきているものです。

このDXCCが、おもに外国の局と交信することを楽しみにしているDXerと呼ばれる



注目する全世界のハムに状況を伝える一方、的確な指示を出す母船内のOH2BH

多くの人たちの価値基準になっています。ゴルフというスコアのようなものと考えればよいでしょうか。

## 計画

さて、このスカボローリーフがDXCCの別カントリーになるであろう事実を最初に見つけたしたのは、ドイツ在住のハムDK9KXでした。

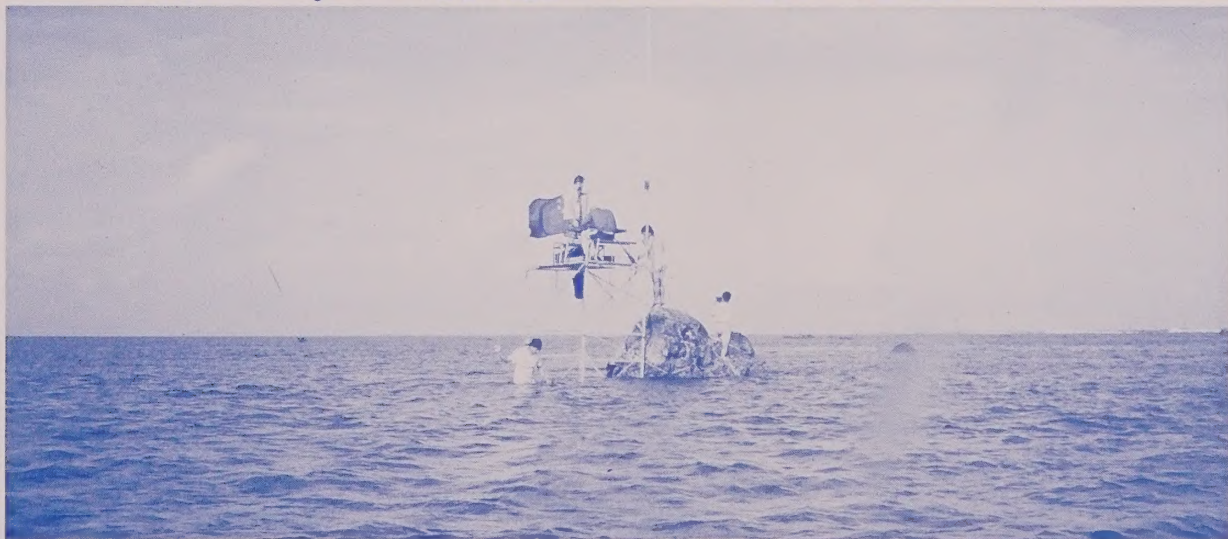
かれは同島への上陸許可を入手し、1994年1月にARRLに対しニュー・カントリーの

申請を済ませます。あとは同地に行って電波を出す（これをDXペディションという）ばかりとなりました。

ところが、いざ実行するとになると想像以上の困難があることがわかり、かれの計画は頓挫してしまいました。

一方、OH2BHは、とにかくどんどころなのか見なくては始まらないので、DL5VJと二人で、4月24日にマニラでチャーターした飛行機で同島を偵察しました。この

船から見たScarborough Reef（中国名：黄岩島）。ヤグラのほかに見えるのは、白い波とわずかな岩だけ





ときの感触で、やってやれないことはない、ただし、相当の資金と経験豊富なオペレーターが必要であることがわかりました。

JA1BKとOH2BHはDXペディションの実行を決意し、人選と、必要な法的手続きを取ることを開始。まず偵察の資料を抱え二人で北京に飛び、中国のアマチュア無線連盟CRSAに計画を伝えました。

しばらくするうちに中国政府から必要許可が下り、いよいよ実現に向けた具体的なプログラムの作成作業にはいりました(この詳細記事がCQ ham radio 1994年8、9月号に掲載されています)。

## DXペディション

こうして練られたDXペディション計画。最終的にきまった参加メンバーは、

OH2BH,  
DL5VJ,  
BZ1HAM,

KJ4VH,  
JF1IST,  
のオペレーター5名に加え、  
フィリピンの作業員2名、機関  
長の総勢8名となりました。  
コールサインは中国政府の発  
給したBS7Hです。

かれらのとった足取りはつ  
ぎのとおりです。

[6月]  
22日 早朝(現地時間)に  
マニラを出港  
24日 0800 現地に到着

1200 上陸  
25日 1515 ヤグラを設営  
1716 14.195MHzで第  
一声  
26日 0650 QRT

途中、台風の接近などで時  
間が限られ、しかも写真でお  
わかりのように立地条件の過  
酷な地からの運用でしたが、  
それでも全世界のハム、2千  
数百局との交信をログに記録  
しました。

なお、次回の計画は今秋に  
あるかもしれないと噂されて  
いるようです。

## ハムフェアに参加

今回のハムフェア'94には、  
DXペディションに行ったメン  
バーのOH2BH、BZ1HAM、  
JF1ISTの3名が参加  
されています。

会場内のどこかできっとか  
れらに会えるはずです。また  
とないチャンスですので、こ  
の機会にぜひアイボールQSO  
をお楽しみください。

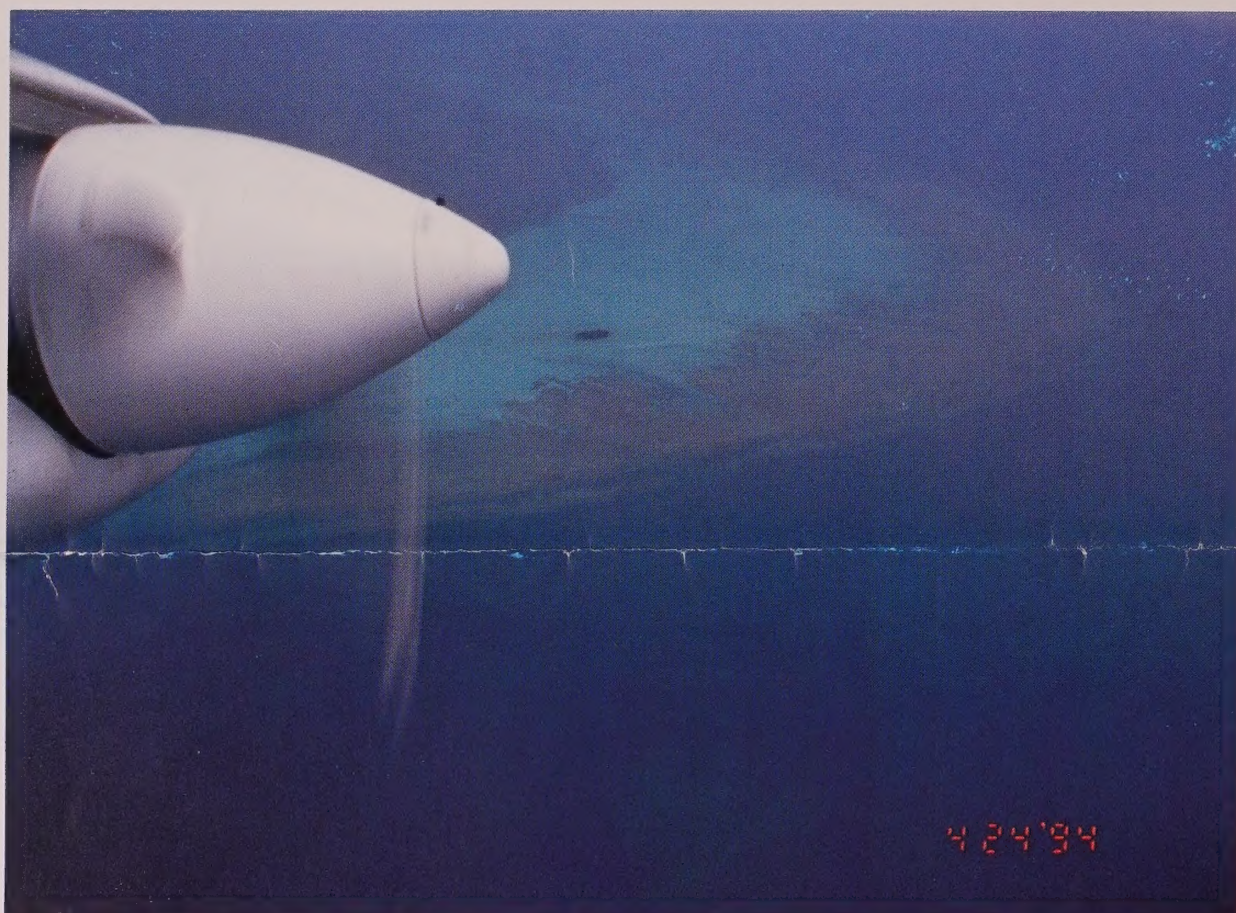


困難な設営作業を終えJAと交信するJF1IST

DXペディションに参加したオペレーターとクルーたち。チャーター船の船上で







1994年4月24日、OH2BHとDL5VJの二人が偵察飛行したときに撮影されたスカボローリーフ



運用は約5m長のサンゴ礁に組み付けられたヤグラからおこなわれた。ヤグラの基礎はダイバーが潜水して据え付けられた